

リスク管理

数多くの失敗の歴史を経験して来た中で、多くの企業はリスクマネジメントの必要性を認識し、リスクマネジメント体制をその内部に作り上げてきた。それにもかかわらずいまだ企業は、リスク管理の不備と思われる事態により大きな被害を生じさせている場合が少なくない。

◇

なぜであろうか？ 一つには、リスクマネジメントの方法論の欠如・不備という理由がある。日常業務に追われて、身の回りのリスクを発見し重大度を評価する仕組みを作っていなかったり、発見したリスクがとても深刻なものとかついていたにもかかわらず、どのような対応策が必要なのかを自らでは考え出せなかったり、必要な対応策は

リスクマネジメント

ABC

総論①

主な天災や企業事故・事件(2000年以降)

- 00. 6 三宅島噴火、全島民避難
- 7 三菱自動車工業の大規模なリコール隠し発覚
- 01. 9 雪印製品で集団食中毒
- 02. 1 牛肉偽装事件や食品不正表示相次ぐ
- 8 東京電力などで原発トラブル隠し発覚
- 04. 4 六本木ヒルズで自動回転ドア死亡事故
- 10 過去最多の台風上陸、集中豪雨で大被害
- 04. 10 新潟中越地震、M6.8震度7
- 05. 4 J R 福知山線脱線事故で死者107人
- 11 東証システム障害
建物耐震強度の偽装問題
松下電器産業の石油温風器で大規模な回収対応
- 06. 2 東横インで不正改造発覚
6 シンドラーエレベーター社のブレーキ制御プログラムにミス。死亡事故も
- 7 パロマ湯沸かし器で一酸化炭素中毒多発、大規模な回収対応
- 8 送電線切断による東京大停電
8 ツトヨの三次元測定機不正輸出問題
- 9 J R 京葉線変電所、信号器室火災で長時間不通

分かっていても体力的に実現できなかったりしたということが原因というタイプである。

しかし、それ以上に重大な原因として、リスクマネジメント体制は整備されてきたものの、リスクに対する感性や企業文化のために、リスクを的確に認識できなかったり、その重大性を感知できなかったということが指摘できる。

これは、社会一般ではおかしいと思われることでも、特定の組織、業界の視点では何ら問題がなく、従って社内の誰もが行動にリスクを感じず当たり前のこととして実施され、破局に向かってしまったというものである。組織や業界の根本にかかわるリスクであり、通り一遍の対策などでは対応が難しい。本講座は最初の5回で

これは、社会一般ではリスクマネジメントに関するいくつかの基礎事項を解説した後、上記のような間違いを犯さないための方法を「リスクマネジメントのABC」という形で紹介する。

講座では企業だけでなくその従業員としての個人や立地している地域、あるいは企業を取り巻く情報といったことにも目を向け、毎回、異なったテーマを取上げる。そして

でその中で、リスクの発見・認識、重大性の把握、さらには効果的な対応策の計画・実行、不測の事態に備えた適切な危機管理といったリスクマネジメントの手順を示すとともに、組織文化や成員のリスク感性等の問題にも言及しながら、リスクマネジメントの基礎を示すものとする。

なお、本講座は企業のリスクマネジメント部署の人に向けてのものではなく、一般の役員や従業員などにリスクに関しての常識を身に付けてもらうことを狙いとし、火曜日は「企業および企業活動」に関するリスクを、水曜日は地域や個人の「安心や安全」に関するリスクを、木曜日は「情報」に関するリスクを取り上げていく。

(日本総合研究所)

業界の視点、社会とズレ